

# 古文単語チェックテスト Unit 1～2

次の傍線部分の意味を答えよ。

- ▽ もと光る竹なむ一筋ありける。①あやしがりて寄りて見るに、筒の中光りたり。
- ▽ ②あやしの身には得がたき物にて、年ごろえまうけ侍らず。
- ▽ 鬼の生みたれば、親に似てこれもおそろしき心あらむとて、親の③あやしき衣引き着せて
- ▽ 三寸ばかり④なる人、いと⑤うつくしうて⑥ゐたり。
- ▽ 我、⑦朝ごと夕ごとに見る竹の中に⑧おはするにて、知りぬ。子と⑨なり給ふべき人⑩なめり。
- ▽ 金ある竹を見つくること重なりぬ。⑪かくて翁やうやう豊かになりゆく。
- ▽ この児、養ふほどに、すくすくと大きに⑫なりまさる。
- ▽ 海の中に、⑬はつかに山見ゆ。船の中をなむ⑭せめて見る。
- ▽ ⑮せめて恐ろしきもの。夜鳴る神。
- ▽ その山のさま、高く⑯うるはし。これやわが⑰求むる山ならむ。
- ▽ ⑱さすがに怖ろしく⑲おぼえて、山のめぐりをさしめぐらして、二三日ばかり⑳見ありく。
- ▽ かく㉑のたまふは誰ぞ。
- ▽ 中納言参り給へれば、㉒うるはしくなりて、居直りなどせられければ、
- ▽ 少し㉓おぼえたるところあれば、子なめりと見給ふ。
- ▽ 木高き木どもの中にもろ声に聞きたるこそ、㉔さすがにをかしけれ。
- ▽ 昔㉕おぼゆる花橘

# 古文単語チェックテスト Unit 1～2 解答

---

- |                 |           |
|-----------------|-----------|
| ① 不思議に思って       | ⑭ 無理に・強いて |
| ② 身分が低い         | ⑮ 非常に     |
| ③ みすぼらしい        | ⑯ 美しい     |
| ④ である           | ⑰ 探し求めている |
| ⑤ かわいらしい        | ⑱ そうは言っても |
| ⑥ 座っている・じっとしている | ⑲ 思う・感じる  |
| ⑦ 毎朝毎晩          | ⑳ 見て回る    |
| ⑧ いらっしゃる        | ㉑ おっしゃる   |
| ⑨ なりなさる・おなりになる  | ㉒ 礼儀正しく   |
| ⑩ であるようだ        | ㉓ 似ている    |
| ⑪ こうして          | ㉔ やはり     |
| ⑫ ますますなっていく     | ㉕ 思い出す    |
| ⑬ かすかに          |           |

# 古文単語チェックテスト Unit 3～4

次の傍線部分の意味を答えよ。

- ▽ ①かかるほどに、宵うち過ぎて、
- ▽ ある人の毛の穴②さへ③見ゆるほどなり。
- ▽ 土より五尺ばかり上がりたる④ほどに立ち連ねたり。
- ▽ ⑤物におそはるるやうにて、あひ⑥戦はむ心もなかりけり。
- ▽ 心⑦さかしき者、⑧念じて射むとすれども、ほかさまへ行きければ、荒れも⑨戦はて⑩まもりあへり。
- ▽ 装束の⑪きよらなること、⑫物にも似ず。
- ▽ 同じ⑬ほど、それより下藤の更衣たち
- ▽ ひたぶるに仏を⑭念じ奉りて
- ▽ 春は⑮あけぼの。⑯やうやう白くなりゆく山ぎは
- ▽ 夏は夜。月のころは⑰さらなり、闇も⑱なほ、螢の多く飛びちがひたる。
- ▽ 雨など降るも⑲をかし。
- ▽ 風の音、虫の音など、⑳はた言ふべきにあらず。
- ▽ 冬は㉑つとめて。
- ▽ いと寒きに、火など急ぎおこして、炭もて渡るも、いと㉒つきづきし。
- ▽ 風波やまねば、㉓なほ同じ所に泊まれり。
- ▽ 野分のまたの日こそ、いみじう㉔あはれにをかしかれ。
- ▽ 雨うち降りたる㉕つとめてなどは、世になう心あるさまにかかし。

# 古文単語チェックテスト Unit 3～4 解答

---

- ① こうしているうちに
- ② までも
- ③ みえるぐらい
- ④ あたり・場所
- ⑤ 物の怪
- ⑥ 戦おうとする心
- ⑦ しっかりしている
- ⑧ 我慢する・こらえる
- ⑨ 戦わずに
- ⑩ 見つめ合っている
- ⑪ 清らかだ・美しい
- ⑫ 何にも似ていない
- ⑬ 身分
- ⑭ お祈り申し上げて
- ⑮ 明け方
- ⑯ だんだん
- ⑰ 言うまでもない
- ⑱ やはり
- ⑲ 趣深い・風情がある
- ⑳ やはり
- ㉑ 早朝
- ㉒ 似つかわしい
- ㉓ 相変わらず
- ㉔ 趣深い・風情がある
- ㉕ 翌朝

# 古文単語チェックテスト Unit 5～7

次の傍線部分の意味を答えよ。

- ▽ 公世の二位の①せうとに、良覚僧正と②聞こえしは、極めて腹あしき人なりけり。
- ▽ 人、「榎木の僧正」とぞ言ひける。この名③然るべからずとて④かの木を切られにけり。
- ▽ 師の⑤いはく、「二つの矢を持つことなかれ。後の矢を⑥たのみて、はじめの矢に⑦なほざりの心あり」
- ▽ わづかに二つの矢、師の前にて一つを⑧おろかにせんと思はんや。
- ▽ これ、昔、名高く⑨聞こえたる所なり。
- ▽ ⑩いはくを御存知ない故、御不審の立つはず。
- ▽ 待つ人は障りありて、⑪たのめぬ人は来たり。
- ▽ 至りて⑫おろかなる人は、たまたま賢なる人を見て、これを憎む。
- ▽ 沙羅双樹の花の色、盛者必衰の⑬理をあらはす。
- ▽ ⑭おごれる人も久しからず、ただ春の夜の夢のごとし。
- ▽ ⑮たけき者もつひにはほろびぬ、⑯ひとへに風の前の塵に同じ。
- ▽ 遠くの異朝を⑰とぶらへば、皆、旧主先皇の⑱まつりごとにも従はず、⑲いさめをも思ひ入れず。
- ▽ 天下の乱れんことを悟らずして、民間の⑳うれふるところを知らず。
- ▽ わが宿世はいと㉑たけくぞおぼえ給ひける。
- ▽ 男わづらひて、常に㉒とぶらひ聞こえ給へど、かくれにけり。ひとへに後生をも㉓とぶらへり。
- ▽ 地獄におちて苦を受くるに、㉔うれへ申すことのあるによりて、聞き入りにけり。
- ▽ よき人は、㉕ひとへに好けるさまにも見えず。

# 古文単語チェックテスト Unit 5～7 解答

---

- |                |               |
|----------------|---------------|
| ① 兄・兄弟         | ⑭ 思いあがる       |
| ② 申し上げる        | ⑮ 勢い盛んだ       |
| ③ ふさわしい        | ⑯ 全く          |
| ④ その           | ⑰ 探す・調べる      |
| ⑤ 言うことには       | ⑱ 政治          |
| ⑥ あてにする        | ⑲ 忠告・諫言       |
| ⑦ いい加減な        | ⑳ 嘆き悲しむ・不安に思う |
| ⑧ おろそかに        | ㉑ 優れている       |
| ⑨ 評判になる        | ㉒ お見舞いする      |
| ⑩ いわれ・理由       | ㉓ 供養する        |
| ⑪ あてにさせる・期待させる | ㉔ 訴える         |
| ⑫ 愚かな          | ㉕ むやみに        |
| ⑬ 道理           |               |

# 古文単語チェックテスト Unit 8～9

次の傍線部分の意味を答えよ。

- ▽ 女院に①付きまゐらせたる女房たち      ▽ ②まさなうも敵にうしろを見させ給ふものかな。
- ▽ ③いづくに刀を立つべしともおぼえず。
- ▽ そもそも④いかなる人にて⑤ましまし候ふぞ。
- ▽ ⑥なむぢは⑦たそ、と問ひたまふ。
- ▽ 物そのもので⑧候はねども、武蔵の国の住人、熊谷次郎直実。
- ▽ 古代の御絵どもの侍る、⑨参らせむ。
- ▽ ⑩まさなきまで、古の墨書きの上手ども跡をくらうなしつ
- ▽ 女房、物語などして局に集まり⑪さぶらふに
- ▽ この人一人⑫討ちたてまつたりとも、負くべきいくさに勝つべき⑬やうもなし。
- ▽ 勝つべきいくさに負くことも⑭よもあらし。
- ▽ 助けまゐらせんとは⑮存じ候へども、味方の軍兵、雲霞のごとく候ふ。
- ▽ ただ⑯とく首をとれ。
- ▽ 熊谷あまりに⑰いとほしくて、いづくに刀を立つべしともおぼえず。
- ▽ ⑱さてしもあるべきことならねば、泣く泣く首をぞかいてんげる。
- ▽ あはれ、⑲弓矢とる身ほど⑳口惜しかりけるものはなし。
- ▽ 壺なる御薬㉑たてまつれ。これより薄き御衣㉒たてまつれ。ことごとしからぬ御車に㉓たてまつれ。
- ▽ さるべき㉔やうありて、秋ごろ和泉に下る。
- ▽ 某が㉕ぞんじたる寺々は大方参りたりけり。

# 古文単語チェックテスト Unit 6～9 解答

---

- |               |                      |
|---------------|----------------------|
| ① お付き申し上げる    | ⑭ まさかないだろう           |
| ② 見苦しい・みっともない | ⑮ 思います               |
| ③ どこに         | ⑯ 早く                 |
| ④ どのような       | ⑰ かわいそうだ・気の毒だ        |
| ⑤ いらっしゃる      | ⑱ そうしても              |
| ⑥ お前          | ⑲ 武士                 |
| ⑦ 誰           | ⑳ 残念だ                |
| ⑧ ございませんが     | ㉑ お飲みください・召し上がってください |
| ⑨ 差し上げる       | ㉒ お召しになってください        |
| ⑩ 意外だ・思いがけない  | ㉓ お乗りになってください        |
| ⑪ お控えする       | ㉔ 事情                 |
| ⑫ お討ち申し上げた    | ㉕ 承知している・知っています      |
| ⑬ 方法・わけ       |                      |



# 古文単語チェックテスト Unit 10～11

次の傍線部分の意味を答えよ。

- ▽ ①をりふし北風激しくて、磯打つ波も高かりけり。
- ▽ ②いづれも②いづれも晴れならずといふことぞなき。
- ▽ あの扇の真ん中③射させてたばせ給へ。
- ▽ 本国へ迎へんと④おぼしめさば、この矢はづさせ給ふな。
- ▽ あまりの⑤おもしろさに、感に⑥たへざるにやとおほしくて
- ▽ 昔、二条の後に⑦仕うまつる男ありけり。
- ▽ 笛⑧つかうまつり給ふ、いと面白し。
- ▽ などが、客人を⑨なさけなくはもてなすらむ
- ▽ 好きたまはざらむも⑩なさけなく、さうざうしかるべしかし
- ▽ ⑪をりふしの移り変はるこそ、⑫物ごとにあはれなれ。
- ▽ 娘をわれに⑬たべ。
- ▽ 銀も 金も玉も 何せむに まされる宝 子に⑭如かめやも
- ▽ 憶良らは 今は⑮まからむ 子⑯泣くらむ それその母も 我を待つらむぞ
- ▽ 春の園 紅⑰にほふ 桃の花 下照る道に 出で立つをとめ
- ▽ 多摩川に さらす手作り さらさらに 何そこの児の ここだ⑱かなしき
- ▽ ⑲人はいさ 心も知らず ⑳ふるさとは 花ぞ昔の 香ににほひける
- ▽ ㉑秋来ぬと 目には㉒さやかに 見えねども 風の音にぞ ㉓おどろかれぬる
- ▽ ㉔駒とめて 袖打ちはらふ ㉕かげもなし 佐野のわたりの 雪の夕暮れ

# 古文単語チェックテスト Unit 10～11 解答

---

- ① ちょうどそのとき
- ② どちら・どれ
- ③ 射させなさってください
- ④ お思いになる
- ⑤ 素晴らしさ
- ⑥ 我慢する・耐える
- ⑦ お仕える
- ⑧ お吹き申し上げる
- ⑨ つれない・薄情だ
- ⑩ 風情がない
- ⑪ 季節
- ⑫ すべてのもの
- ⑬ ください・お与えになってください
- ⑭ 及ぶだろうか、いや及ばない
- ⑮ 退出しよう
- ⑯ 今ごろ、泣いているだろう
- ⑰ 美しく輝く
- ⑱ いとしい
- ⑲ 人（あなた）の心は、さあどうだかわからない
- ⑳ 昔なじみの土地
- ㉑ 秋が来た
- ㉒ はっきりと
- ㉓ はっと気づく
- ㉔ 馬
- ㉕ 物陰

# 古文単語チェックテスト Unit 12～13

次の傍線部分の意味を答えよ。

- ▽ ①心うくおぼえて、ある時思ひ立ちて、ただひとり、かちより②まうでけり。
- ▽ ③年ごろ思ひつること、④果たし侍りぬ。
- ▽ ⑤参りたる人ごとに山へ登りしは⑥ゆかしかりしかど、神へ参るこそ⑦本意なれと思ひけり。
- ▽ 何某寺といふ所に、かしこき行ひ人⑧はべり。
- ▽ この太秦殿に⑨はべりける女房
- ▽ ほかにて酒など⑩まゐり、酔ふ。親王に馬の頭、大御酒⑪まゐる。
- ▽ 年ごろ、人づてにのみ聞きて、⑫ゆかしく思ふ御琴の音ども
- ▽ 定頼中納言⑬たはぶれて、小式部内侍の局にありける
- ▽ 丹後へ⑭つかはしける人は参りたりや。いかに⑮心もとなく⑯おぼすらん。
- ▽ 小式部これより歌詠みの世に⑰おぼえ出で来にけり。
- ▽ 木のもとに、馬を⑱ひかへて立てる
- ▽ 京に、その人の御もとにとて、⑲ふみ書きてつく
- ▽ ありたきことは、まことしき⑳ふみの道。
- ▽ もろこしには限りなきものにて、㉑ふみにも作る。
- ▽ 犬、涙をただ落としに落とすに、いと㉒あさまし。
- ▽ 世の中飢渴して、㉓あさましきこと侍り。
- ▽ 振りかくべき髪の㉔おぼえさへあやしからむ。
- ▽ ㉕こころもとなき日数重なるままに、白河の関にかかりて、旅心定まりぬ。

# 古文単語チェックテスト Unit 12～13 解答

---

- ① つらい・情けない
- ② 参拝した・参詣した
- ③ 長年
- ④ 果たしました
- ⑤ 参拝した者が皆
- ⑥ 知りたいと思ったが
- ⑦ 本来の願い・昔からの望み
- ⑧ います・おります・ございます
- ⑨ お仕えしていた
- ⑩ 召し上がり・お飲みになり
- ⑪ 差し上げる
- ⑫ 聞きたい
- ⑬ ふざけて
- ⑭ 派遣なさる・おやりになる
- ⑮ 待ち遠しい・じれったい・不安だ
- ⑯ お思いになるだろう
- ⑰ 評判
- ⑱ 引きとめる
- ⑲ 手紙
- ⑳ 学問
- ㉑ 漢詩
- ㉒ 驚く・驚きあきれる
- ㉓ ひどい・情けない・あきれる
- ㉔ 感じ
- ㉕ はっきりしない・落ち着かない

# 古文単語チェックテスト Unit 14～15

次の傍線部分の意味を答えよ。

- ▽ ①「入道」とはどのような人か？   ▽ 「かの大納言、いづれの船にか乗らるべき」と②のたまはず。
- ▽ かばかりの詩をつくりたらしましかば、③名のあがらむこともまさりなまし。
- ▽ 今井四郎④まうしけるは、われながら⑤心おごりせられし
- ▽ あはれにうれしくも⑥あひ申したるかな。
- ▽ 御手跡うつくしう⑦あそばし、箏の御琴をぞいみじう⑧あそばしける。
- ▽ 薩摩守馬よりおり、⑨みづから高らかにのたまひけるは
- ▽ ⑩みづからが子童にてありしとき
- ▽ 家島は ⑪名にこそありけれ 海原を あが恋ひつる 妹もあらなくに
- ▽ 山僧⑫あまたともなひて、児など⑬具して、竹生島へ参りたりけり。
- ▽ 巡礼⑭はてて、今は帰りなんとしける時
- ▽ ⑮やすきことにて候ふを、さやうのこと⑯つかうまつる若者、ただ今皆⑰たがひ候ひて
- ▽ ⑱かたじけなく小人たちの御使ひを給ひて候ふ
- ▽ 御所望むなしくて御帰り候ひぬる、生涯の遺恨候ふ⑲よし、老僧の中より申せ
- ▽ 人ざま、かたちなど、いとかくしも⑳具したらむとは
- ▽ （病が）重りぬれば、我にもあらず取り乱して㉑はてぬ。
- ▽ かく危ふき枝の上にて、㉒やすき心ありてねぶるらんよ。
- ▽ 姫ののたまふやうに㉓たがはず作り出でつ。
- ▽ 春の夜の 夢をうつつに なす㉔よしもがな           ▽ 北の方なむいにしへの㉕よしあるにて

# 古文単語チェックテスト Unit 14～15 解答

---

- |            |                |
|------------|----------------|
| ① 仏道に入った人  | ⑭ 終わって         |
| ② おっしゃる    | ⑮ 簡単な・たやすい     |
| ③ 評判・名声    | ⑯ いたす・いたします    |
| ④ 申し上げる    | ⑰ 行き違いになる      |
| ⑤ 思い上がり    | ⑱ おそれ多い・もったいない |
| ⑥ お会い申し上げた | ⑲ 旨・主旨         |
| ⑦ お書きになる   | ⑳ 備わる          |
| ⑧ お弾きになる   | ㉑ 死ぬ           |
| ⑨ 自分自身で    | ㉒ 安心して・穏やかな    |
| ⑩ 私        | ㉓ 食い違わず        |
| ⑪ 名ばかり     | ㉔ 方法・手段        |
| ⑫ たくさん     | ㉕ 由緒           |
| ⑬ 連れて      |                |

# 古文単語チェックテスト Unit 16～17

次の傍線部分の意味を答えよ。

- ▽ この世に、①いかで②かかること③ありけむと、④めでたく⑤おぼゆることは、⑥文こそ⑦はべれ。
- ▽ むなしう帰り参りたらんは、⑧なかなか参らざらんよりあしかるべし。
- ▽ 梢も庭も⑨めづらしく青みわたりたる卯月ばかりの曙
- ▽ ⑩つれづれなる折、昔の人の文見出でたるは⑪いみじくうれしくこそおぼゆれ。
- ▽ これは、ただ昔ながら、⑫つゆ変はることなきも、いとめでたきことなり。
- ▽ ⑬いみじかりける延喜、天曆の御時の古事
- ▽ ⑭いかでこのかぐや姫を得てしがな
- ▽ 僧の⑮やはら寄りて「⑯などかうは泣かせたまふぞ」
- ▽ 桜は⑰はかなきものにて、⑱かく⑲ほどなく⑳うつろひさぶらふなり。
- ▽ 父大臣の㉑あながちにし侍りしことなれば、
- ▽ わが父の作りたる麦の花散りて、実の入らざらむ、思ふが㉒わびしき
- ▽ さくりあげて、「よよ。」と泣きければ、㉓うたてしやな。
- ▽ 齒ぐろめつけなど、㉔はかなきつくろひどもす。
- ▽ たよりなかりける女の、清水に㉕あながちに参るありけり。

# 古文単語チェックテスト Unit 16～17 解答

---

- ① どうして・なぜ
- ② このような
- ③ あった（生まれた）のだろう
- ④ すばらしく
- ⑤ 思う・感じる
- ⑥ 手紙
- ⑦ です・ございます
- ⑧ かえって
- ⑨ 素晴らしく
- ⑩ 手持ち無沙汰だ・所在ない・することがない
- ⑪ はなはだしく
- ⑫ まったく・少しも
- ⑬ 素晴らしい
- ⑭ どうにかして・何とかして
- ⑮ そっと・静かに
- ⑯ どうして・なぜ
- ⑰ あっけない
- ⑱ このように
- ⑲ すぐに
- ⑳ 散る
- ㉑ 強引に・無理やりに
- ㉒ つらい
- ㉓ 気に入らない・がっかりする・興ざめだ
- ㉔ ちょっとした
- ㉕ 熱心に



# 古文単語チェックテスト Unit 18～19

次の傍線部分の意味を答えよ。

- ▽ ねずみの、娘を①まうけて、「天下に並びなき婿をとらん」と、②おほけなく思ひ企てて
- ▽ 杉の渡しより寄せんとて③まうけたる舟ども      ▽ 鷺はいと④みゆも見苦し。
- ▽ めづらかなる児の御⑤かたちなり。      ▽ 「⑥げに」と思ひて、築地にこのよしを言ふ
- ▽ ねずみに掘らるるとき、⑦耐へがたきなり      ▽ うち出でむこと、⑧かたくやありけむ
- ▽ 女ども、契りふかくて語らふ人の、未まで仲よき人⑨かたし。
- ▽ 橋を踏まば、落つるやうに⑩したためて      ▽ あすは故郷に返す文⑪したためて、
- ▽ 坊主他行の⑫ひまに、棚より取り下ろしける
- ▽ 谷風に 解くる氷の ⑬ひまごとに うち出づる波や 春の初花
- ▽ うはべはいとよき御仲の、昔よりさすがに⑭ひまありける。
- ▽ ⑮日ごろ欲しと思ひければ、二、三坏よくよく食ひて
- ▽ ⑯日ごろ降りつる雪の、今日はやみて      ▽ 今さらに⑰よしなし。これぞめでたきこと。
- ▽ あらぬ⑱よしなき者の名乗りして来たる      ▽ ⑲よしなき争ひをして、遂に命を失ふ
- ▽ 二、三坏まで食べて候へども⑳おほかた死なず
- ▽ この芸において、㉑おほかた七歳を以てはじめとす。
- ▽ 児の知恵㉒ゆゆしくこそ。学問の器量も、㉓むげにはあらじかし。
- ▽ たちいつる 天の川辺の ゆかしさに 常は㉔ゆゆしき ことも忘れぬ
- ▽ ㉕むげに思ひくはすは、ひがごとなり。

# 古文単語チェックテスト Unit 18～19 解答

---

- ① 持って・得て
- ② 身の程知らずに・分不相応に
- ③ 準備する・作る
- ④ 見た目
- ⑤ 容貌
- ⑥ まったくだ・本当だ・その通りだ
- ⑦ 耐えられない
- ⑧ 難しい
- ⑨ めったにない・めずらしい
- ⑩ 準備する
- ⑪ 書き記す
- ⑫ 合い間・間
- ⑬ すき間
- ⑭ 心の隔たり・不仲
- ⑮ ふだん
- ⑯ 数日
- ⑰ どうしようもない・仕方ない
- ⑱ 関係ない
- ⑲ つまらない・理由のない
- ⑳ まったく
- ㉑ だいたい
- ㉒ すばらしい・はなはだしい
- ㉓ ひどい・劣った
- ㉔ 不吉な
- ㉕ むやみに

# 古文単語チェックテスト Unit 20～21

次の傍線部分の意味を答えよ。

- ▽ かぐや姫いと①いたく泣きたまふ。人目も今は②つつみたまはず泣きたまふ。
- ▽ 昔の③契りありけるによりなむ、この世界にはまうで来たりける。
- ▽ 迎へに人々まうで来むず。④さらずまかりぬべければ、おぼし嘆かむが悲しき
- ▽ こは、⑤なでふことのたまふぞ。      ▽ 「我こそ死なぬ」とて、泣き⑥ののしる
- ▽ 女かしづきたる家、いと⑦いたしかしよ。
- ▽ 面目あるやうに言はれぬる虚言は、人⑧いたくあらがはず。
- ▽ ⑨なでふかかるすき歩きをして、かくわびしき目を見るらむ。
- ▽ この世に⑩ののしり給ふ光源氏、かかるついでに見たてまつり給はむや。
- ▽ かの左衛門督は、中納言にえなられじ。また、そこに⑪さられば、こと人こそはなるべかなれ。
- ▽ 暮るるほどなれば、遊女ども、⑫ちぎり求めてありく。
- ▽ 信ある武士なれば、必ず⑬ちぎりを誤らじ。
- ▽ ⑭いとどゆかしさまされど、わが⑮思ふままに、⑯そらにいかでかおぼえ語らむ。
- ▽ 手洗ひなどして、ひとまに⑰みそかに入り
- ▽ 年ごろ慣れつる所を、⑱あらはに⑲こほち散らして
- ▽ 日の入りぎはの、いと⑳すごく㉑霧りわたりたるに、
- ▽ 暮れぬれば、心も㉒そらに浮きたちて、
- ▽ （舞の遊びは）なまめかしく㉓すごくおもしろく
- ▽ 日を消し、月を㉔わたりて一生を送る      ▽ 年を経て㉕よばひわたりけるを

# 古文単語チェックテスト Unit 20～21 解答

---

- ① ひどく・はなはだしく
- ② 気にする・遠慮する
- ③ 宿命・運命
- ④ 避けられない
- ⑤ なんとという
- ⑥ 騒ぐ
- ⑦ すばらしい
- ⑧ 大して・あまり
- ⑨ なぜ・どうして
- ⑩ 評判になる・噂になる
- ⑪ 断る・辞退する
- ⑫ 男女の交わり
- ⑬ 約束
- ⑭ ますます
- ⑮ 思い通りに
- ⑯ 暗唱して・何も見ずに
- ⑰ ひそかに・こっそりと
- ⑱ 丸見えになる
- ⑲ 壊す
- ⑳ ぞっとする・物寂しく・恐ろしく
- ㉑ 霧が一面に広がる
- ㉒ 上の空だ・気もそぞろだ
- ㉓ すばらしく
- ㉔ 過ごして・経過して
- ㉕ 求婚し続ける

# 古文単語チェックテスト Unit 22～23

次の傍線部分の意味を答えよ。

- ▽ ①世の中に ②さらぬ別れの なくもがな 千代もといのる 人の子のため
- ▽ その後、男もかれがれになりぬれば、心ゆかぬものは③世なりけりと思ふ。
- ▽ 子を思ふ心の闇は、なほ④しのびがたく ▽ ⑤しのびて寄する車どものゆかしきを
- ▽ 亡き人を⑥しのぶる宵 ▽ しのび⑦ねをのみ泣きて、その年もかへりぬ。
- ▽ ⑧いつしか、梅咲かなむ。 ▽ 夜昼待ち給ふに、年越ゆるまで⑨音もせず
- ▽ (私の名を) 日ごろは⑩音にも聞きつらん、今は目にも見給へ。
- ▽ 遠くも来にけるかなと、⑪わびあへるに ▽ 昨日は栄えおごりて、時を失ひ、世に⑫わび
- ▽ ⑬住みわびぬ 今は限りと 山里に 身を隠すべき 宿求めてむ
- ▽ ⑭とふ人は 初雪をこそ 分け来しか ▽ 渡守に⑮とひければ、これなむ都鳥と言ふ。
- ▽ 思はむ子を法師になしたらむこそ⑯心苦しけれ。
- ▽ 母、物語などもとめて見せたまふに、げに⑰おのづからなくさみゆく
- ▽ ⑱おのづから人の上などいひそしりたるに、幼き子どもの聞きとりて、その人のあるにいひ出でたる。
- ▽ あはれなる 心の闇の ⑲ゆかりとも 見し夜の夢を 誰か定めん
- ▽ 国の内は、守の⑳ゆかりのみこそ、かしこきことにすめれど
- ▽ 人かたらひなども㉑えせず ▽ ㉒こと事なくこのことを申して、
- ▽ ㉓まめまめしき物は、まさなかりなむ ▽ ㉔まめまめしく過ぐすとならば、さてもありはず
- ▽ 後の位も㉕何にかはせむ

# 古文単語チェックテスト Unit 22～23 解答

---

- ① この世・現世
- ② 避けられない
- ③ 男女の仲
- ④ 我慢する、耐える
- ⑤ 人目を避ける
- ⑥ 思い出す
- ⑦ 泣き声
- ⑧ 早く
- ⑨ 音沙汰
- ⑩ 噂
- ⑪ つらく思う・思い悩む
- ⑫ 落ちぶれる
- ⑬ 住みにくくなる
- ⑭ 訪れる
- ⑮ 質問する
- ⑯ 気の毒に思う
- ⑰ 自然と
- ⑱ たまたま・偶然
- ⑲ 関係
- ⑳ 縁者・関係者
- ㉑ できない
- ㉒ 他の事
- ㉓ 実用的な
- ㉔ まじめに・実直に
- ㉕ 何にもならない、何の意味もない

# 古文単語チェックテスト Unit 24～25

次の傍線部分の意味を答えよ。

- ▽ 「①いざ、かいもちひせむ」   ▽ ②さりとて、し出ださむを待ちて寝ざらむも、わろかりなむ
  
- ▽ 「大臣出で給ふ」と、うちしはぶきて、③おどろかし奉り給ふ。
  
- ▽ この児、片方に寄りて、寝たるよしにて、④さだめて⑤おどろかさむすらむと、待ちみたる
  
- ▽ ただ一度に⑥いらへむも、待ちけるかと⑦もぞ思ふ   ▽ や、⑧な起こしたてまつりそ。
  
- ▽ ⑨あな、わびし   ▽ ひしひしと、ただ食ひに食ふ音のしければ、⑩ずちなくて
  
- ▽ 三、四の君に裳着せたてまつりたまはむとて、⑪かしづきそしたまふ。
  
- ▽ また、時々⑫通ひたまひけるわかうどほり腹の君とて、母もなき御むすめおはす。
  
- ▽ 北の方、心やいかが⑬おはしけむ   ▽ おもかげ松島に⑭かよひて、また異なり。
  
- ▽ 人の上言ふを腹立つ人こそ、いと⑮わりなけれ。
  
- ▽ 大臣も児より⑯らうたくや思しつかずなりにけむ、まして北の方の御ままにて、⑰わりなきこと多かりけり。
  
- ▽ 夜ふかく帰る、寒きこといと⑱わりなく   ▽ ⑲はかばかしき人もなく、乳母もなかりけり。
  
- ▽ 目とまりたまふ。⑳さるは、限りなう心を尽くし聞こゆる人に、いとよう似奉れる
  
- ▽ 望みて預かれるなり。㉑さるは、たよりごとに物も絶えず得させたり。
  
- ▽ 空のけしき、㉒はかばかしくも見えず。   ▽ 竜の頸の玉は㉓いかが取らむ。
  
- ▽ 殿上人などあまた立ちて、舎人の弓どもとりて馬ども㉔おどろかし笑ふ
  
- ▽ 思ほしき言も㉕かよはず。

# 古文単語チェックテスト Unit 24～25 解答

---

- |                  |                      |
|------------------|----------------------|
| ① さあ             | ⑭ 似ている               |
| ② そうかといって        | ⑮ 道理に合わない、わけがわからない   |
| ③ 気づかせる          | ⑯ かわいく               |
| ④ きっと            | ⑰ 理不尽な、つらい           |
| ⑤ 起こす、目覚めさせる     | ⑱ はなはだしい             |
| ⑥ 答える、返事する       | ⑲ しっかりした、頼れる         |
| ⑦ 思ったら困る         | ⑳ というのは              |
| ⑧ お起こし申し上げてはいけない | ㉑ しかし、それなのに          |
| ⑨ ああ、つらい         | ㉒ はっきりと              |
| ⑩ どうしようもない       | ㉓ どうして取れるだろうか、いや取れない |
| ⑪ 大切に育てる         | ㉔ びっくりさせる            |
| ⑫ お通いなさった        | ㉕ 通じない               |
| ⑬ いらっしゃっただろう     |                      |



# 古文単語チェックテスト Unit 26～27

次の傍線部分の意味を答えよ。

- ▽ 女はこの男をと思ひ、親の①あはすれども、聞かでなむありける。つひに本意のごとく②あひにけり。
- ▽ 吉相の夢も、あしざまに③あはせつれば違ふ。   ▽ ④語らひあはずべき人もなし。
- ▽ 筒井つの 井筒にかけし まろがたけ 過ぎにけらしな ⑤妹見ざるまに
- ▽ 女、親なく、たよりなくなるままに、男、もろともに⑥いふかひなくてあらむやはとて
- ▽ とねり牛飼など申すものは、⑦いふかひなき下臈のはてにて候へば
- ▽ けふ、風、雲の⑧けしきはなはだあし。   ▽ 若き人にて、⑨けしきもえ深く思ひ寄らねば
- ▽ 前裁の中に隠れみて、河内へ⑩いぬる顔にて見れば、この女、いとよう化粧じて、うち⑪ながめて
- ▽ ほととぎす 鳴きつる方を ⑫ながむれば ただ有明の 月ぞ残れる
- ▽ 「こぼれてにほふ花桜かな」と⑬ながめければ
- ▽ このをばの御心の、⑭さがなくあしきこと
- ▽ このをばを、嫁、⑮ところせがりて、「⑯持ていまして、深き山に捨て給ひてよ」と⑰せめければ
- ▽ 嫗ども、⑱いざ給へ。
- ▽ 我が身ひとつならば安らかならましを、⑲ところせう引き具して
- ▽ 右大将の宇治へ⑳いますること、なほ絶え果てずや。   ▽ 冬は霜にぞ㉑せめらるる
- ▽ わが心 ㉒慰めかねつ 更級や 姨捨山に 照る月を見て
- ▽ ㉓思ひかね 妹がり行けば 冬の夜の ㉔川風寒み 千鳥鳴くなり
- ▽ 怪しがり言へど、使ひのなければ㉕いふかひなくて

# 古文単語チェックテスト Unit 26～27 解答

---

- ① 結婚させる
- ② 結婚する
- ③ 夢占いをする
- ④ お互いに語り合う、相談する
- ⑤ あなた、恋人
- ⑥ 情けなく、つまらなく
- ⑦ 身分が低い
- ⑧ 様子
- ⑨ 理由、事情
- ⑩ 行ってしまふ、去る
- ⑪ 物思いにふける
- ⑫ 遠くを見つめる
- ⑬ 和歌を詠む
- ⑭ 性格が悪い
- ⑮ 邪魔に思う、厄介がる
- ⑯ 持っていたらしゃって
- ⑰ せき立てる、催促する
- ⑱ さあいらっしゃい
- ⑲ いっぱい、たくさん
- ⑳ いらっしゃる
- ㉑ 悩ませる、困らせる
- ㉒ 慰めることはできない
- ㉓ 思いに耐えられない
- ㉔ 川風が寒いので
- ㉕ どうしようもない

# 古文単語チェックテスト Unit 28～29

次の傍線部分の意味を答えよ。

- ▽ 丹波に、出雲といふ所あり。しだの某とかや①しる所なれば、
- ▽ いざ給へ、出雲拜みに。かいもちひ②召させむ      ▽ 限りと覚え給へば、御乳母を③召して
- ▽ 先帝の御直衣なり。今はの時まで④めされたり
- ▽ この獅子の立ちやう、いとめづらし。深き⑤ゆゑあらむ。
- ▽ 前裁もいとおかしく、⑥ゆゑをつくしたり。      ▽ いかに殿ばら、殊勝のことは御覧じ⑦とがめずや。
- ▽ 人の⑧とがめ聞こゆべき振る舞ひ      ▽ ⑨おとなしく物知りぬべき顔したる神官
- ▽ この御社の獅子の立てられやう、定めて⑩ならひあることにはべらむ。ちと⑪承らばや
- ▽ かしこき仰せ言を、度々⑫うけたまはりながら
- ▽ 年月の⑬ならひに、さうざうしく物心ぼそう思されけるにや
- ▽ 花の色は うつりにけりな ⑭いたづらに 我が身世にふる ながめせしまに
- ▽ 「もののあはれは秋こそまされ」と人ごとにいふめれど、それも⑮さるものにて、
- ▽ 青葉になり行くまで、⑯よろづにただ心をのみぞ悩ます。
- ▽ 花橘は⑰名にこそ負へれ、なほ梅の匂ひにぞ、いにしへの事も立ちかへり恋しう思ひ出でらるる。
- ▽ 山吹の⑱きよげに、藤の⑲おぼつかなきさましたる、すべて、思ひ捨てがたきこと多し。
- ▽ 年ごろ、夢の中にも見たてまつらで、恋しう⑳おぼつかなき御さまを、
- ▽ セタまつるこそ㉑なまめかしけれ。      ▽ ㉒なまめかしく、人の親げなくおはしますを
- ▽ 又、㉓野分のあしたこそをかしけれ。
- ▽ 筆にまかせつつ、㉔あぢきなき㉕すさびにて、かつ破り捨つべき物なれば、

# 古文単語チェックテスト Unit 28～29 解答

---

- ① 領有する・治める
- ② 召し上がる
- ③ お呼びになる
- ④ お召しになる
- ⑤ 理由・いわれ
- ⑥ 風情
- ⑦ 気づく・気にかける
- ⑧ 非難する・責める
- ⑨ 年長の・大人の
- ⑩ 由緒
- ⑪ お聞きする
- ⑫ いただく
- ⑬ 習慣
- ⑭ むなしく・無意味に
- ⑮ もっともな
- ⑯ あらゆること
- ⑰ 有名だ・名高い
- ⑱ きれいな
- ⑲ ぼんやりとしている
- ⑳ 気がかりだ・じれったい
- ㉑ 優雅だ
- ㉒ 若々しい
- ㉓ 台風
- ㉔ 役に立たない・無駄だ
- ㉕ 慰み事

# 古文単語チェックテスト Unit 30～31

次の傍線部分の意味を答えよ。

- ▽ さて冬枯の気色こそ秋には①をさをさおとるまじけれ。
- ▽ ②すさまじきものにして見る人もなき月
- ▽ ③すさまじき者の固めたる門へ寄せ当たりぬるものかな。
- ▽ なほ、④やむごとなき如来の御光なりかし。
- ▽ ⑤やむごとなきことによりて、まかりのぼりにけり。
- ▽ まことに⑥やむごとなき誉れありて、人の口にある歌多し。
- ▽ 公事ども⑦しげく、春の⑧いそぎにとりかさねて催しおこなはるるさまぞいみじきや。
- ▽ あらぬ⑨いそぎまづ出でて、      ▽ ⑩つごもりの夜、いたう暗きに、
- ▽ 何事にかあらん、⑪ことことしくののしりて、⑫暁がたより、さすがに音なくなりぬる
- ▽ この所に住み始めし時は、⑬あからさまと思ひしかども、今すでに、五年を経たり
- ▽ 猪、草中より⑭あからさまにいでて人を逐ふ。      ▽ さるべき⑮たよりをたづねて言ひやる。
- ▽ おのづから、事の⑯たよりに都を聞けば、やんごとなき人の⑰かくれ給へるも、あまた聞こゆ。
- ▽ まして、その⑱数ならぬ類、尽くしてこれを知るべからず。
- ▽ 炎上にほろびたる家、またいくそばくぞ。ただ仮の庵のみ、⑲のどけくして恐れなし。
- ▽ かむなは、小さき貝をこのむ。これ、⑳こと知れるによりてなり。
- ▽ ㉑すべて人の住家をつくるならひ、必ずしも㉒ことのためにせず。われ、身のために㉓むすべり。
- ▽ たとひ、広くつくれりとも、誰をやどし、誰をか㉔すゑん。
- ▽ 袖ひちて ㉕むすびし水の 凍れるを 春立つ 今日の風や とくらむ

# 古文単語チェックテスト Unit 30～31 解答

---

- ① ほとんど
- ② 殺風景だ・もの寂しい
- ③ ものすごい
- ④ 尊い・高貴な
- ⑤ やむを得ない
- ⑥ 格別な・並々でない
- ⑦ 多い
- ⑧ 準備
- ⑨ 急用
- ⑩ 月末
- ⑪ 大げさに
- ⑫ 夜明け前
- ⑬ 一時的だ・ちょっとのことだ
- ⑭ 突然
- ⑮ よりどころ・縁
- ⑯ 機会・ついで
- ⑰ 死ぬ
- ⑱ とるに足りない・物の数でない
- ⑲ 穏やかだ・平和だ
- ⑳ 事情・物事・道理
- ㉑ だいたい
- ㉒ 一大事
- ㉓ 作る
- ㉔ 住ませる・置く
- ㉕ 手ですくう

# 古文単語チェックテスト Unit 32～33

次の傍線部分の意味を答えよ。

- ▽ 家居のつきづきしく、①あらまほしきこそ、仮の宿りとは思へど、②興あるものなれ。
- ▽ ③今めかしくきららかならねど、木だちもの④ふりて、わざとならぬ庭の草も⑤心あるさまに
- ▽ いまはかく⑥ふりぬる齡に、よろづのこと忘れ侍りにけるを
- ▽ うちある調度も昔覚えてやすらかなるこそ、⑦心にくしと見ゆれ。
- ▽ 唐の、大和の、めづらしく、⑧えならぬ調度ども並べ置き
- ▽ 心のままならず作りなせるは、見る目も苦しく、いとわびし。さてもやは、⑨ながらへ住むべき。
- ▽ 大事を思ひたたん人は、「かの事⑩沙汰しおきて」など思はずして⑪さながら捨つべきなり。
- ▽ 言葉よその聞きに従ひて、⑫さながら心にあらず。
- ▽ いまだ庭の乾かざりければ、いかがせんと⑬さたありけるに
- ▽ 院の御⑭さたにて、内裏にはしろしめされず
- ▽ おほやう、人を見るに、少し心ある⑮きは、皆この⑯あらましにてぞ⑰一期は過ぐめる。
- ▽ 母屋の⑱きはに立てたる屏風のかみ
- ▽ 受領の北の方にて国へ下るをこそは、よろしき人の幸ひの⑲きはと思ひて
- ▽ 終に逃るまじき道は、とてもかくても同じこと、その⑳きは心乱れなくだにあらば
- ▽ 物にも乗らぬ㉑際は、大路をよろぼひ      ▽ 無事の㉒あらましをもきかせ申すべし。
- ▽ 老いたる親、㉓いとなき子、㉔君の恩、人の情、捨てがたしとて捨てざらんや。
- ▽ 赤玉は 緒さへ光れど 白玉の ㉕君が装ひし 貴くありけり

# 古文単語チェックテスト Unit 32～33 解答

---

- ① 理想的だ
- ② 風情・興趣
- ③ 今風だ・当世風だ
- ④ 古くなる
- ⑤ 風情がある・風情がわかる
- ⑥ 老いる・年を取る
- ⑦ 奥ゆかしい
- ⑧ 何とも言えないほど素晴らしい
- ⑨ 長く・長続きして
- ⑩ 処置・始末
- ⑪ すべて・そのまま
- ⑫ まったく
- ⑬ 相談・評議
- ⑭ 命令
- ⑮ 程度（の人）
- ⑯ 予定・期待・計画
- ⑰ 一生
- ⑱ 端っこ・境目
- ⑲ 限界・限り・際限
- ⑳ 死に際・最期・臨終
- ㉑ 身分（の者）
- ㉒ 一部始終・あらまし
- ㉓ 主君
- ㉔ お方・貴人
- ㉕ あなた・恋人



# 古文単語チェックテスト Unit 34～35

次の傍線部分の意味を答えよ。

- ▽ 帝、①御くしおろし給ひて、②やがてところどころ山ぶみし給ひて③おこなひ給ひけり。
- ▽ 帝、④内におはしましける時、橘良利といひける人殿上にさぶらひける
- ▽ おびえまどひて、御簾の⑤うちに入りぬ。
- ▽ ⑥うちの上の、源氏の物語、人に読ませ給ふ
- ▽ かかる御ありきし給ふ、いと⑦あしきことなり
- ▽ 和泉の国にいたり給ふて、日根といふところに⑧おはします夜あり。
- ▽ 御門、山にて⑨待ちおはしますらむに、御ともに⑩かしらおろしてけり。
- ▽ 亭子の帝、鳥飼院におはしましにけり。例のごと、御⑪遊びあり。
- ▽ 玉淵はいと⑫らうありて、歌などよく詠みき。
- ▽ この鳥飼といふ題をよく⑬つかうまつりたらむにしたがひて、まことの子とは⑭おもほさむ
- ▽ ⑮すなはち、あさみどりかひある春にあひぬればかすみならねどたちのぼりけり、と詠む
- ▽ 帝、⑯ののしりあはれがりたまひて、御⑰しほたれたまふ。
- ▽ 髪も袴も⑱しほたれて
- ▽ 人々もよく酔ひたるほどにて、酔ひ泣きいと⑲になくす。
- ▽ ありとある⑳上達部、みこたち、四位五位みな㉑かづけたれば、㉒かづきあまりて
- ▽ 傍らなる足鼎を取りて頭に㉓かづきたれば
- ▽ まとみする 身に散りかかる 紅葉葉は 風の㉔かづくる 錦なりけり
- ▽ 帝、㉕おりみ給ひてまたの年の秋

# 古文単語チェックテスト Unit 34～35 解答

---

- ① 出家なさる
- ② すぐに・そのまま
- ③ 仏道修行する
- ④ 宮中
- ⑤ 内部
- ⑥ 天皇
- ⑦ 悪い
- ⑧ いらっしゃる
- ⑨ 待ちなさる・待っていらっしゃる
- ⑩ 出家する・剃髪する
- ⑪ 詩歌管弦の遊び
- ⑫ 熟練している・経験を積んでいる
- ⑬ お詠み申し上げる
- ⑭ お思いになる
- ⑮ すぐに
- ⑯ 大騒ぎする
- ⑰ 涙を流す
- ⑱ 濡れる
- ⑲ この上なく
- ⑳ 公卿・官位三位以上の貴族
- ㉑ 褒美を与える
- ㉒ 褒美をいただく
- ㉓ かぶる
- ㉔ かぶせる
- ㉕ 退位する

# 古文単語チェックテスト Unit 36～37

次の傍線部分の意味を答えよ。

- ▽ 御堂入道殿より大丸といふ笛を①たまはりて、吹きけり。
- ▽ まげて②許したまはらむ。
- ▽ ③たばかりて、使をやりて、④そらごとをいひつけて、売るべきの由いひけり。
- ▽ 人をあざむき、⑤すかすは、その⑥咎、軽からぬことなり
- ▽ 御対面候ひて、⑦すかしまゐらせ給へ。      ▽ 女のうつくしきに、よろづの⑧とが見許して
- ▽ 身の⑨いとまをたまはりて、この笛を持ちて参るべし
- ▽ 忍びて対の上に御⑩いとま聞こえて、出で給ふ
- ▽ 大夫、笛を取らむと思ふ心の深さにこそ、さまざま⑪かまへけれ
- ▽ 居屋ばかりを⑫かまへて
- ▽ ⑬あらぬ笛を、大丸とてうちくだきければ、大夫の⑭をこにて⑮やみにけり。
- ▽ ⑯あらぬいそぎまづ出で来て      ▽ 園の別当入道は、⑰さうなき包丁者なり。
- ▽ 幼き者に⑱さうなく恥辱を与へられけるこそは
- ▽ かやうの事、おのれはよに⑲うるさく覚ゆるなり。
- ▽ こまかなることどもあれど、⑳うるさければ書かず。
- ▽ ⑲まれびとの響応なども、㉑ついでをかききやうにとりなしたるも、誠によけれども
- ▽ ついでなくて、「これを奉らん」と言ひたる、まことの㉒こころざしなり。
- ▽ いとはつらく見ゆれど、㉓こころざしはせむとす。
- ▽ 惜しむよしして乞はれんと思ひ、勝負の負けわざにとつげなどしたる、㉔むつかし。

# 古文単語チェックテスト Unit 36～37 解答

---

- ① いただく
- ② お許しいたごう
- ③ たくらむ・だます・計略をはかる
- ④ 嘘
- ⑤ だます
- ⑥ 罪
- ⑦ なだめる・なぐさめる
- ⑧ 欠点
- ⑨ 時間・ゆとり
- ⑩ 別れ
- ⑪ 計画する・たくらむ
- ⑫ 作る
- ⑬ 違う・ほかの
- ⑭ 愚かだ・ばかげている
- ⑮ 終わる
- ⑯ 意外な・思いがけない
- ⑰ この上なく素晴らしい
- ⑱ 無造作に・ためらいなく
- ⑲ わざとらしい・嫌味だ
- ⑳ 面倒だ・わずらわしい
- ㉑ 客
- ㉒ 機会
- ㉓ 気持ち・誠意・真心・愛情
- ㉔ お礼・贈り物
- ㉕ 嫌だ・不快だ

# 古文単語チェックテスト Unit 38～39

次の傍線部分の意味を答えよ。

- ▽ 少将、病にいといたうわづらひて、すこし①おこたりて内にまゐりたりけり。
- ▽ 相かまへて、念仏②おこたりたまふな      ▽ かなむありつると③奏しければ、④まかでぬ。
- ▽ 少将のもとより文をなむ⑤おこせたりける      ▽ うち⑥見おこせて、つくづくうちまもりて
- ▽ 「いかが⑦ものしたまふ」と問へば      ▽ 里に車とりに⑧やりて待つほど
- ▽ かやうのことにのみ⑨心をやりて      ▽ ⑩言ひもやらす、むせかへり給ふほどに
- ▽ いみじうさわぎののしりて、門⑪さしつ。
- ▽ うちに⑫消息いひ入るれど、なにのかひなし。
- ▽ 今日めづらしき⑬せうそこありければ、読みけり。
- ▽ 御むすめ、心にくく⑭なべてならぬさまに、親たちかしづきたまふこと限りなし。
- ▽ 人々の、花、蝶やと⑮めづるこそ、⑯心ばへをかしからで、はかなくあやしけれ。
- ▽ 岩に生ひたる松の根ざしも、⑰こころばへあるさまなり。
- ▽ 若き人々は⑱怖ちまどひければ、男の童の、ものおぢせず
- ▽ 酒宴ことさめて、いかがはせむと⑲まどひけり
- ▽ 人はすべて、⑳つくろふところあるはわろし
- ▽ 犬君がこれを毀ち侍りにければ、㉑つくろひ侍るぞ。
- ▽ 鏡取りて、顔など㉒つくろひて      ▽ 眉㉓さらに抜きたまはず。
- ▽ よき人の、おはします有様などのいとゆかしきこそ、㉔けしからぬ心にや。
- ▽ ㉕けしからず物騒に候ふは、何事にて候ふぞ。

# 古文単語チェックテスト Unit 38～39 解答

---

- ① 体調がよくなって・治って
- ② 怠ける
- ③ 天皇に申し上げる
- ④ 退出する
- ⑤ よこす・送ってくる
- ⑥ こちらを見てくる
- ⑦ なさる・しなさる
- ⑧ 行かせて・派遣して
- ⑨ 心を晴らす・満足させる
- ⑩ 最後まで言わず
- ⑪ 鍵をかける・門を閉ざす
- ⑫ 取り次ぎ
- ⑬ 手紙
- ⑭ 並ひととおりではない・格別だ
- ⑮ 愛する・かわいがる
- ⑯ 心づかい・心のありよう
- ⑰ 風情
- ⑱ ひどく怖がった
- ⑲ 途方に暮れる・思い悩む
- ⑳ 誤魔化す・取りつくろう
- ㉑ 修理する・直す
- ㉒ 化粧する・飾る
- ㉓ まったく
- ㉔ よくない・不都合な・異様な
- ㉕ はなはだしく・ひどく

# 古文単語チェックテスト Unit 40～42

次の傍線部分の意味を答えよ。

- ▽ つねの使よりは、この人よく①いたはれといひやれりければ、いと②ねむごろにいたはりけり。
- ▽ ③ねんごろにあひ語らひける友だち   ▽ をりふし④いたはる事候ひて、下り候はれず。
- ▽ ⑤タさりはかへりつつ、そこに来させけり。
- ▽ 月の⑥おぼろなるに、小さき童をさきに立てて人立てり。男うれしくて、わが寝る所に⑦ゐて入る。
- ▽ 神璽・宝剣ばかりをぞ、忍びて⑧ゐてわたさせ給ふ。
- ▽ 相見ずて 日長くなりぬ このころは いかにかやくや ⑨いぶかし我妹
- ▽ 絵に描きたるをこそかかることは見しに、⑩うつつにはまだ知らぬを
- ▽ ⑪うつつの我が身ながら、さるうとましきことを言ひつけらるる宿世
- ▽ ⑫うつつにも似ず、たけく厳きひたぶる心出で来て   ▽ 雨の⑬かきくらし降りたる。
- ▽ かかるおほせごとにつけても、⑭かきくらすみだり心地になむ。
- ▽ 雪のおもしろう降りたりし⑮あした、人の⑯がり言ふべきことありて
- ▽ 野分の⑰あしたこそをかしけれ。   ▽ ⑱ひがひがしからむ人の仰すこと、聞き入るべきかは。
- ▽ 入りて消息せよとのたまへば、人入れて⑲案内せさす。
- ▽ ようも⑳あないせで、おろかなることを伝えけるかな。
- ▽ ㉑わざとならぬにほひ、しめやかにうちかをりて、しのびたる㉒けはひ、いとものあはれなり。
- ▽ なほ事さまの㉓いうにおぼえて、物のかくれよりしばし見みたるに
- ▽ 京にて生まれたりし女子、国にてにはかに㉔失せにしかば、
- ▽ この香㉕うせなむ時に立ち寄り給へ。

# 古文単語チェックテスト Unit 40～42 解答

---

- ① もてなす、ねぎらう
- ② 丁寧だ、熱心だ
- ③ 親しく、仲良く
- ④ 病気になる
- ⑤ 夕方
- ⑥ かすんでいる、ぼんやりしている
- ⑦ 引き連れる、伴う
- ⑧ 持参する、持っていく
- ⑨ 気がかりだ、不安だ
- ⑩ 現実
- ⑪ 現世、この世、生きている
- ⑫ 正気
- ⑬ 一面を暗くする
- ⑭ 心を暗くする
- ⑮ 朝
- ⑯ もと、所
- ⑰ 翌朝
- ⑱ 無風流な、非常識な
- ⑲ 取り次ぎをさせる
- ⑳ 事情をうかがう、事情をしる
- ㉑ わざわざ、特別に
- ㉒ 様子
- ㉓ 優美だ、優雅だ
- ㉔ 死ぬ、亡くなる
- ㉕ 消える



# 古文単語チェックテスト Unit 43～44

次の傍線部分の意味を答えよ。

- ▽ 月は①くまなきをのみ見るものかは。
- ▽ 僧都の御心は、聖といふ中にも、あまり②くまなく物し給へば
- ▽ おのれも③くまなき好き心にて、いみじくたばかり      ▽ ④さはる事ありて、まからで
- ▽ ことに⑤かたくななる人ぞ、「この枝、かの枝散りにけり。今は見所なし」などはいふめる。
- ▽ 虞舜は、⑥かたくななる父を敬ふ
- ▽ ⑦あだなる契りを⑧かこち、遠き⑨雲居を思ひやるこそ、⑩色好むとは言はめ。
- ▽ 蚕、蝶になりぬれば、いともそでにて、⑪あだになりぬるをや
- ▽ 酔ひに⑫かこちて、苦しげにもてなして
- ▽ 帝、⑬雲居に跡をとどめで、みぐしおろしにけり。
- ▽ 師の説のわろきことあるをば、⑭わきまへ言ふことも多かり
- ▽ 必ずしも師の説にたがふとて、な⑮はばかりぞ。      ▽ 一間に⑯はばかり程の物の面いできて
- ▽ 我が師の、⑰よにすぐれ給へる一つなり。      ▽ 嘆かしき心の中も⑱あきらむばかり
- ▽ いにしへを考ふること、ことごとく⑲あきらめ尽くすべくもあらず。
- ▽ よき人の⑳説ならんからに、多くの中には、誤りなどなからん
- ▽ 白妙の 袖をはつはつ ㉑見しからに かかる恋をも 我はするかも
- ▽ 船をとどめて、とかく㉒さだむることあり。      ▽ これも同じことなりと、㉓おぼしさだめて
- ▽ 師の説なりとて、必ず㉔なづみ守るべきにもあらず。
- ▽ よきあしきを言はず、㉕ひたぶるに古きを守るは、学問の道には言ふかひなきわざなり。

# 古文単語チェックテスト Unit 43～44 解答

---

- ① かげりがない、満月の
- ② 隠し事がない、あけっぴろげな
- ③ 精通している、抜け目がない
- ④ 邪魔な、差し支える、障害となる
- ⑤ 無風流な、無教養な
- ⑥ 頑固な
- ⑦ はかない、むなしい
- ⑧ 文句を言う、嘆く
- ⑨ 遠くのところ
- ⑩ 恋愛の情趣を理解する
- ⑪ 無駄だ、無意味だ
- ⑫ かこつける
- ⑬ 宮中
- ⑭ 判別する、見分ける
- ⑮ 遠慮する
- ⑯ はびこる、一杯になる
- ⑰ 非常に、まったく
- ⑱ 明るくさせる
- ⑲ 明らかにする
- ⑳ 説であるからといって
- ㉑ 見たために
- ㉒ 議論する、話し合う
- ㉓ 考え決めて
- ㉔ 執着する、こだわる
- ㉕ ひたすらに、一途に

# 古文単語チェックテスト Unit 45～46

次の問いに答えよ。

- ① 女御、更衣の読みを現代仮名遣いで答えよ。      ② 女御、更衣とは、どのような立場の人か。
- ③ 女御、更衣では、どちらのほうが身分が高いか。

次の傍線部分の意味を答えよ。

- ▽ いとやんごとなき際にはあらぬが、すぐれて④ときめき給ふありけり。
- ▽ 思ひあがり給へる御かたがた、⑤めざましきものにおとしめそねみ給ふ。
- ▽ 「⑥めざましうもありけるかな」と見捨てがたく口惜しうおぼさる。
- ▽ 恨みを負ふにやありけむ、いと⑦あつしくなり      ▽ いよいよ⑧飽かずあはれなるものに思ほして
- ▽ 上人なども、⑨あいなく目を⑩そばめつつ、いと⑪まばゆき人の御覚えなり。
- ▽ わが仲は⑫そばみぬるかと思ふまで      ▽ いと⑬まばゆきまでねびゆく
- ▽ ⑭はしたなきもの。こと人を呼ぶに、我そとてさし出でたる。
- ▽ 思ほえず、古里にいと⑮はしたなくてありければ      ▽ ⑯おのがししの営みに起き出でて
- ▽ のどかに、つらきも憂きも⑰かたはらいたきことも、思ひ入れたるさまならで
- ▽ 女御亡き跡の御気色を見奉る上人、女房など⑱かたはらいたしと聞きけり。
- ▽ 見捨てて行きあかれにけりと、⑲つらくや思はむ。      ▽ ⑳らうがはしき大路に立ちおはしまし
- ▽ 皆同じく笑ひののしる、いと㉑らうがはし。
- ▽ 食ひかなぐりなどし給へば「あな、㉒らうがはしや」
- ▽ ごほごほと鳴る神よりも㉓おどろおどろしく、踏み轟かす唐臼の音も耳㉔かしがまし。
- ▽ ㉕くだくだしきことのみ多かり。

# 古文単語チェックテスト Unit 45～46 解答

---

- ① にようご、こうい
- ② 天皇の後
- ③ 女御
- ④ 寵愛を受ける
- ⑤ 気に入くない、不快な
- ⑥ 素晴らしい
- ⑦ 病気が重くなり、病気がちになり
- ⑧ 満足する
- ⑨ 気に入くない
- ⑩ 目を背ける
- ⑪ 見ていられない
- ⑫ 疎遠になる、よそよそしくなる
- ⑬ 美しい、まぶしい
- ⑭ きまり悪い
- ⑮ 不似合いだ
- ⑯ それぞれ、各自
- ⑰ みっともない、見苦しい
- ⑱ 気の毒だ、かわいそうだ
- ⑲ 薄情だ、冷淡だ、思いやりがない
- ⑳ ごたごたしている
- ㉑ うるさい
- ㉒ 無作法だ
- ㉓ 大げさだ
- ㉔ うるさい
- ㉕ わずらわしい

# 古文単語チェックテスト Unit 47～48

次の傍線部分の意味を答えよ。

- ▽ いさよふ月に、①ゆくりなく②あくがれむことを、女は思ひ③やすらひ、
- ▽ 物思ふ人の魂は、げに、④あくがる物になむありける。
- ▽ 御仲も⑤あくがれて、程経にけれど      ▽ 岩に腰かけて、しばし⑥やすらふほど
- ▽ ⑦にはかに雲隠れて、明け行く空いとをかし。
- ▽ ⑧例の急ぎ出で給ひて、軽らかにうち乗せ給へれば、右近ぞ乗りぬる。
- ▽ 右近、⑨艶なる心地して、来し方のことなども、人知れず思ひ出でけり。
- ▽ 御供に人もさぶらはざりけり。⑩ふびんなるわざかな
- ▽ 幼うより⑪ふびんにして召し使はれける童
- ▽ 「⑫さるべき人召すべきにや」など申さすれど      ▽ ⑬さるべき契りこそはおはしましけめ
- ▽ 舞をせさせ奉らむとて、習はせ給ふほどにも、⑭あやくがり⑮すまひ給へど
- ▽ よろづに誘り、祈りをさへして、⑯教へ聞こえさするに
- ▽ もとより歌のことは知らざりければ、⑰すまひけれど      ▽ 人づてならで、⑱きこえさせむ。
- ▽ 御色真青にならせ給ひて、⑲あれかにもあらぬ御けしきなり。
- ▽ 父大臣はさらなり、よその人だにこそ、⑳すすろに感じ奉りけれ。
- ▽ ㉑すすろなる者に、なにか多く賜ばむ。      ▽ この大臣の御㉒すゑはおはせぬなり。
- ▽ 髪の美しげにそがれたる㉓すゑも
- ▽ タベの陽に子孫を愛して、さかゆく㉔すゑを見んまでの命をあらまし
- ▽ 「かち人の 渡れどぬれぬ えにしあれば」と書いて、㉕すゑはなし。

# 古文単語チェックテスト Unit 47～48 解答

---

- ① 突然
- ② さまよい歩く
- ③ ためらい
- ④ 上の空になる
- ⑤ 疎遠になる
- ⑥ 休む、滞在する
- ⑦ 突然
- ⑧ いつものように、いつも通り
- ⑨ 優美な、優雅な
- ⑩ 不都合な
- ⑪ かわいがって
- ⑫ ふさわしい
- ⑬ そうなるのが当然な
- ⑭ 嫌がる
- ⑮ 抵抗する、争う
- ⑯ お教え申し上げる
- ⑰ 辞退する、断る
- ⑱ (直接) 申し上げる
- ⑲ 茫然自失な、夢見心地な
- ⑳ ひどく、はななだしく、むやみに
- ㉑ 関係ない
- ㉒ 子孫
- ㉓ 先端
- ㉔ 未来、将来
- ㉕ 下の句

# 古文単語チェックテスト Unit 49～50

次の傍線部分の意味を答えよ。

- ▽ ①はやうは②あて人なれど、官あさくてうち続き、四位ばかりにて失せにし人の子なり。
- ▽ ③あてなるもの。薄色に白がさねの汗衫(かざみ)。
- ▽ こたみは、みな世に④ゆりたる古き道の者どもなり。
- ▽ 宮内は⑤まだしかるべけれども、⑥けしうはあらずとみゆめればなん。
- ▽ 花ざかりは⑦まだしきなれど
- ▽ ⑧かまへてまろが⑨おもて起こすばかり、よき歌つかうまつれよ
- ▽ ⑩かまへてよくよく宮仕ふ。
- ▽ かやうのものをば、⑪かまへて調すまじきなり。
- ▽ ⑫こそふる雪の遅く疾く消えけるほど
- ▽ 下泣きに わが泣く妻を ⑬こそこそは 安く肌触れ
- ▽ 若くて失せにし、いといとほしく⑭あたらしくなん。
- ▽ ⑮さればよと思ふに、ありしよりも⑯けにものぞ悲しき。
- ▽ ただこの一人ある人を⑰人となして、⑱うしろやすからむ妻などにあづけてこそ死にも心安からむ
- ▽ ⑲いかがはせむ。⑳かたちを変へて、世を思ひ離るやと試みむ
- ▽ ㉑何せむにかは、世にも交じらはむ
- ▽ いかにおぼすらむ。㉒なににせむに参り給へるぞ。
- ▽ いみじくよよと泣けば、われもえ㉓せきあへねど、いみじさに、たはぶれに㉔言いなさむ
- ▽ 無益のことを㉕なして時を移すを、愚かなる人とも、僻事する人とも言ふべし。

# 古文単語チェックテスト Unit 49～50 解答

---

- ① 以前
- ② 高貴な、身分が高い
- ③ 優美な、上品な
- ④ 評価されている、認められている
- ⑤ 未熟だ
- ⑥ 悪くはない
- ⑦ まだ早い
- ⑧ 必ず、絶対に
- ⑨ 名誉を保つ、面目をほどこす
- ⑩ 慎重に、注意して
- ⑪ 決して
- ⑫ 去年
- ⑬ 昨晚
- ⑭ 惜しい、もったいない
- ⑮ やっぱりそうだ、思った通りだ
- ⑯ いつもより、特に、普通と違って
- ⑰ 一人前に育てる
- ⑱ 安心な
- ⑲ どうしよう
- ⑳ 出家する
- ㉑ なぜ俗世と交わるだろうか、いや交わらない
- ㉒ 何のために参上なさったのか
- ㉓ 我慢する、こらえる
- ㉔ あえて言う、意図的に言う
- ㉕ 行う



# 古文単語チェックテスト Unit 51～52

次の傍線部分の意味を答えよ。

- ▽ ①むべなう、十月②つごもりがたに、三夜③しきりて見えぬ時あり。
- ▽ ④あさましさに、見てけりとだに知られむと思ひて、書きつく。
- ▽ ⑤つれなうて、「しばし試みるほどに」など気色あり。
- ▽ 雪の山⑥つれなくて年も返りぬ。
- ▽ 「⑦内裏にのがるまじかりけり」とて出づるに、⑧心得で、人をつけて見すれば
- ▽ ⑨さればよと、いみじう心憂しと思へども
- ▽ ⑩とみなる召使ひの来あひたりつればなむ。
- ▽ いとあやしかりつるほどに、⑪ことなしびたる。
- ▽ ⑫いとどしう⑬心づきなく思ふことぞ、限りなきや。
- ▽ 「少し春ある心地こそすれ」とあるは、これが⑭本は⑮いかでかつくべからむと思ひ⑯わづらふ。
- ▽ 世を治むる道、儉約を⑰もととす。
- ▽ 皆いと⑱恥づかしき中に、宰相の御いらへを、⑲いかでか事なしびに言ひいでむ
- ▽ 隔てなく慣れぬる人も、ほど経て見るは、⑳はづかしからぬかは。
- ▽ 上のおはしまして㉑大殿ごもりたり。
- ▽ げにおそうさへあらむは、いと取り所なければ、㉒さはれとて、
- ▽ 思ひ放ち給はじとこそ思ひつれ。㉓さはれ、世に母なき子はなくやはある。
- ▽ ㉔空寒み 花に㉕まがへて 散る雪に

# 古文単語チェックテスト Unit 51～52 解答

- ① なるほど、もっともなことに
- ② 未
- ③ 連続して
- ④ 驚きあきれ
- ⑤ 平然として
- ⑥ いつもと変わらず
- ⑦ 宮中
- ⑧ 納得する、理解する
- ⑨ やっぱりそうだ、思った通りだ
- ⑩ 急な、急ぎの
- ⑪ 素知らぬ顔をする
- ⑫ ますます、ただでさえ
- ⑬ 気に入らない
- ⑭ 上の句
- ⑮ どうやって、どうにかして
- ⑯ 悩む、苦しむ
- ⑰ 基本
- ⑱ 立派だ
- ⑲ どうして～だろうか、いや、できない
- ⑳ きまり悪い
- ㉑ お休みになる
- ㉒ どうにでもなれ
- ㉓ そうではあるが、しかし
- ㉔ 空が寒いので
- ㉕ 見間違える、区別できない

# 古文単語チェックテスト Unit 53～54

次の傍線部分の意味を答えよ。

- ▽ 人もかけらぬあばら屋に、いと①やさしく、いまだ人慣れぬ女ありけり。
- ▽ 世の中を憂しと②やさしと思へども飛び立ちかねつ鳥にしあらねば
- ▽ 思はぬ他の③さかしら出でて来て      ▽ ④さしあたりて、恨みを添へて心のうち晴るる間もなし。
- ▽ ⑤ありし御心知りのもとへ遣はしける。      ▽ まことにさることあり。訪ねざりける、⑥心後れこそ
- ▽ ⑦心おくれせぬ男とこそ世に知られたるに
- ▽ ⑧かたへの者ども、声を立てぬばかりにて⑨袖絞りければ
- ▽ 千年や過ぎにけむ、⑩かたへはなくなりけり。
- ▽ 何しにかは、君の御故にてさぶらふべき。⑪かしこく。
- ▽ なにがし寺といふ所に⑫かしこき行ひ人侍る。      ▽ 矢を射たて殺さむは、なほ⑬かはゆし。
- ▽ ⑭みざり⑮下るるや遅きとあげ散らしたるに、雪降りにけり。
- ▽ ⑯局なる人々呼び上げなどせむも見苦し。      ▽ 「日本紀の御⑰つぼね」とぞつれたりける。
- ▽ ⑱あへなきまで御前許されたるは、さ思しめすやうこそあらめ。
- ▽ 誰も誰も、怪しう⑲あへなき事を思ひ騒ぎて      ▽ 例の炭櫃の火⑳こちたくおこして
- ▽ 人言は まこと㉑こちたく なりぬとも そこにさはらむ 我にあらなくに
- ▽ 上臈、御㉒まかなひに候ひ給ひけるまに近うみ給へり。      ▽ さらにえ㉓ふともみじろかねば
- ▽ ㉔ 「先を追ふ」とは、どのような意味か。わかりやすく説明せよ。
- ▽ ㉕ 「物忌み」とは、どのような意味か。わかりやすく説明せよ。

# 古文単語チェックテスト Unit 53～54 解答

- ① 優雅だ・上品だ
- ② (身もやせるほど) つらい・恥ずかしい
- ③ おせっかい・出しゃばり
- ④ 今のところは・当面の間は
- ⑤ 昔の・以前の
- ⑥ 愚かな・考えが足りない
- ⑦ 気おくれする・ひるむ
- ⑧ そばにいる人・仲間の
- ⑨ 悲しんで泣く・涙でぬれた袖を絞る
- ⑩ 片側・片方・一方・一部分
- ⑪ 恐れ多い
- ⑫ 賢い・優れた・立派な
- ⑬ かわいそうだ
- ⑭ 膝行する・膝を使って移動する
- ⑮ 下がるとすぐに・下がるやいなや
- ⑯ (女房たちの) 部屋・居室
- ⑰ 女官・女房
- ⑱ あっけない
- ⑲ どうしようもない・仕方ない
- ⑳ たくさん・はなはだしく
- ㉑ うるさく・わずらわしく
- ㉒ 世話・準備・用意
- ㉓ さっと・素早く
- ㉔ 貴人が通るときの行列で、先頭で邪魔なものを  
追い払うこと
- ㉕ 一定期間こもって心身を清めること

# 古文単語チェックテスト Unit 55～56

次の傍線部分の意味を答えよ。

- ▽ 足ひき包み、①よろしき姿したる者      ▽ 春ごとに咲くとて、桜を②よろしう思ふ人やはある。
- ▽ さしあたりて、③いちはやき世を思ひはばかりて、参り寄るもなし。
- ▽ ④おほやけより使ひ下りて追ふに      ▽ ⑤おほやけの中のわたくしと申すはこれなり。
- ▽ 烏帽子のさまなどぞ、すこし⑥ひとわろき      ▽ 旅の御よそひ、いたく⑦やつしたまひて、
- ▽ 故院だに、朱雀院の御末にならせ給ひて「今は」と⑧やつし給ひし際に
- ▽ 興つきて見にくく⑨いぶせく覚えければ      ▽ 一日二日隔たる折だに⑩いぶせき心地す
- ▽ 女君、泣き沈みたまへるを、⑪ためらひてぬざり出でたまへる姿
- ▽ いかなるさまにさすらへたまはむと、⑫うしろめたく悲しけれど
- ▽ 経を置きて、いと⑬なやましげに読みみたる尼君、⑭ただ人と見えず。
- ▽ 二条の後のまだ帝にも仕うまつり給はで、⑮ただびとにておはしましける時のことなり。
- ▽ 髪のうちくしげにそがれたる末も、なかなか長きよりも⑯こよなう今めかしきものかな
- ▽ 限りなくめでたく見えし君達、この今見ゆるにあはすれば、⑰こよなく見ゆ。
- ▽ 髪ゆるるかにいと長く、⑱めやすき人なめり。
- ▽ 眉のわたりうちけぶり、⑲いはけなくかいやりたる額つき
- ▽ ⑳ねびゆかむさまゆかしき人かなと、限りなう㉑心を尽くしきこゆる人
- ▽ 御年のほどよりはるかに㉒ねびさせ給ひて      ▽ 愛敬㉓おくれたる人の顔など見ては
- ▽ 故姫君は、十ばかりにて殿に㉔おくれ給ひしほど、いみじうものは思ひ知り給へりしぞかし
- ▽ 行く先に 立つ白波の 音よりも ㉕おくれて泣かむ 我やまさらむ

# 古文単語チェックテスト Unit 55～56 解答

---

- ① 悪くない・良い、平凡だ
- ② 平凡だ、ありふれた、つまらない
- ③ 厳しい
- ④ 朝廷・宮中・政府・天皇
- ⑤ 公的なこと
- ⑥ みっともない・体裁が悪い
- ⑦ 目立たないようにする
- ⑧ 出家する
- ⑨ うっとうしく・不快に
- ⑩ 気がかりな・不安な
- ⑪ 感情をおさえる・心を静める
- ⑫ 気がかりに・不安に
- ⑬ 苦しそうに・つらそうに
- ⑭ 普通の人間・普通の身分の人
- ⑮ 臣下・家来
- ⑯ 素晴らしく
- ⑰ ひどく・劣って
- ⑱ 見た感じがよい・見苦しくない
- ⑲ 幼い・子供っぽい・あどけない
- ⑳ 成長する
- ㉑ 心配する・気をもんでいる
- ㉒ 大人びる・ませている
- ㉓ 劣っている
- ㉔ 先立たれる
- ㉕ 取り残される

# 古文単語チェックテスト Unit 57～58

次の傍線部分の意味を答えよ。

- ▽ 春の野に すみれ摘みにと 来しわれそ 野を①なつかしみ 一夜寝にける
- ▽ 袖②ひちて ③むすびし水の こほれるを 春立つけふの 風やとくらむ
- ▽ 春の夜の 闇は④あやなし 梅の花 色こそ見えね 香やはかくるる
- ▽ ほととぎす 鳴くやさつきの あやめぐさ ⑤あやめも知らぬ 恋もするかな
- ▽ 長炭櫃の火に、ものの⑥あやめもよく見ゆ      ▽ たゆみなく⑦むすぼほれ、物をのみ思したり
- ▽ 通ひ来し 宿の道芝 かれがれに 跡なき霜の ⑧むすぼほれつつ
- ▽ つひに行く 道とは⑨かねて 聞きしかど きのふけふとは 思はざりしを
- ▽ 秋の夜の 月かも君は 雲隠れ 暫しも見ねば ⑩こころ恋しき
- ▽ 契りきな ⑪かたみに袖を しぼりつつ 末の松山 波越さじとは
- ▽ 逢ふことを はつかに見えし 月影の ⑫おぼろけにやは あはれとは思ふ
- ▽ なほ⑬さゆる あらしは雪を 吹きまぜて 夕暮れ寒き 春雨の空
- ▽ 肥後国に族広くて、⑭かしこにつけてはおぼえあり、勢ひ⑮いかめしき兵ありけり。
- ▽ ⑯むくつけき心のなかに、いささか⑰好きたる心混じりて
- ▽ かの男呪ひをるなる。⑱むくつけきこと。      ▽ いみじき⑲かたはありとも、見隠して持たらむ
- ▽ 恋しくも、また見ば劣りやせむと、さすがに⑳あやふし。
- ▽ ㉑似げなくあはれとこそ思ひきこえけれ、我が身の㉒よるべと頼まむに、いと頼もしき人なり。
- ▽ 親に㉓数まへられたてまつらず、世に知らでは、何のかひかはあらむ。
- ▽ なほ、いと㉔たいだいしく、㉕あたらしきことなり。

# 古文単語チェックテスト Unit 57～58 解答

---

- ① 心ひかれる・親しみを感じる
- ② 濡れる
- ③ 手ですくう
- ④ 道理に合わない・わけがわからない
- ⑤ 道理・分別
- ⑥ 模様、区別
- ⑦ 気がふさぐ
- ⑧ 結ばれる
- ⑨ 前もって・あらかじめ
- ⑩ はなはだしく
- ⑪ お互いに
- ⑫ ぼんやりと、いい加減に
- ⑬ 冷え込む
- ⑭ その場所
- ⑮ 激しい・盛大だ
- ⑯ 無骨だ・無風流だ・むさ苦しい
- ⑰ 好色な
- ⑱ 恐ろしい・気味が悪い
- ⑲ 欠点
- ⑳ 不安だ・気がかりだ
- ㉑ 似つかわしくない
- ㉒ 頼み、あてにする人
- ㉓ 人並みに扱う、一人前に扱う
- ㉔ 怠慢だ、不都合だ
- ㉕ 残念だ、惜しい



# 古文単語チェックテスト Unit 59～60

次の傍線部分の意味を答えよ。

- ▽ あな似げな。①愛敬な、などかう、この言葉は②なめき。
- ▽ 世を③なのめに書き流したる言葉のにくきこそ。
- ▽ わが娘は、④なのめならむ人に見せむは惜しげなるさまを
- ▽ さるまじき人のもとに、あまり⑤かしこまりたるも、げにわろきことなり。
- ▽ ただ名のる名を、いささか⑥つつましげならず言ふはいとかたはなれば、⑦けぎよくさ言はず。
- ▽ 御前にては⑧おのがどちものを言ふとも、⑨きこしめすには、などてか「まろが」などは言はむ。
- ▽ あはれがらせ給ひて、物も⑩きこしめさず。
- ▽ 亡くなりたまひし侍従の大納言の御むすめの⑪手を見つつ
- ▽ いつれの⑫手かとく負けぬべき      ▽ 己が⑬手の者を呼び寄せて申しけるは
- ▽ わが身、⑭て負ひ、からき命を生きつつ      ▽ ⑮あなかま、人に聞かすな。
- ▽ ⑯たづぬる人やあると、これを隠して飼ふに、⑰げすのあたりにも寄らず、⑱つと前にのみあり
- ▽ 「いかでありつる鶏ぞ」など⑲たすねさせ給ふに
- ▽ その間に、佐々木は、⑳つと馳せ抜いて
- ▽ 姉㉑おととの中につとまとはれて、をかしがりらうたがるほどに、姉の㉒なやむことある
- ▽ 川の水干て、㉓なやみわづらふ。
- ▽ 心のなし、目の㉔うちつけに、例の猫にはあらず、聞き知り顔にあはれなり。
- ▽ ㉕うちつけにやとおぼさむと、心恥づかしくてやすらひ給ふ

# 古文単語チェックテスト Unit 59～60 解答

---

- ① 可愛げがない、思いやりがない
- ② 失礼だ、無礼だ
- ③ いい加減に
- ④ 平凡な
- ⑤ 恐縮する、恐れ敬う
- ⑥ 遠慮する
- ⑦ きっぱりと、はっきりと
- ⑧ 自分たち同士
- ⑨ お聞きになる
- ⑩ 召し上がる
- ⑪ 文字
- ⑫ 方法
- ⑬ 部下、手下
- ⑭ 傷、負傷
- ⑮ うるさい、静かにしろ
- ⑯ 探す、探し求める
- ⑰ 使用人、下僕、召使い
- ⑱ ずっと、そのまま
- ⑲ 質問する、調べる
- ⑳ さっと、素早く
- ㉑ 妹（年下の同性のきょうだい）
- ㉒ 病気になる、病気で苦しむ
- ㉓ 困る
- ㉔ 一瞬
- ㉕ 軽率だ・無分別だ・ぶしつけだ

# 古文単語チェックテスト Unit 61～62

次の問いに答えよ。

① 「片違へ」とはどのようなことか、わかりやすく説明せよ。

次の傍線部分の意味を答えよ。

▽ 心にうつりゆく②よしなし事を、③そこはかたなく書きつくれば、あやうこそ④ものぐるほしけれ。

▽ ⑤一の人の御有様はさらなり。      ▽ 射水川雪消⑥はふりてゆく水

▽ その子、孫までは、⑦はふれにたれど、なほ⑧なまめかし。

▽ ⑨時にあひ、したり顔なるも、みづからはいみじと思ふらめど、いとくちをし。

▽ 心ざまよき人も、⑩才なくなりぬれば、⑪しなくだり、顔にくさげなる人にも立ちまじりて、

▽ ありたき事は、⑫まことしき文の道      ▽ ⑬まことしう清げなる人

▽ ⑭手など⑮つたなからず走りがく男はよけれ。

▽ ⑯すさまじきもの。方違へに行きたるに、⑰あるじせぬ所。

▽ 待つほどに、⑱ありつる文、立文をも結びたるをも、いときたなげに取りなし

▽ ⑲とかく慰めて、「とく来」と言ひ遣りたるに

▽ 験者の物怪⑳調ずとて、いみじうしたり顔に

▽ よく㉑調じたる火桶の、灰の際清げにて

▽ 袖を顔に押しあつるを、㉒さりげなくもてなしつつ

▽ ㉓困じ給ひにければ、心にもあらずうちまどろみ給ふ

▽ 日々に責められ㉔こうじて      ▽ あな、いと㉕験なしや

# 古文単語チェックテスト Unit 61～62 解答

- ① 凶神を避けるため、別の方向へ行ってから、再度目的地へ向かうこと
- ② とりとめない
- ③ とりとめなく
- ④ 気持ちが高ぶる・狂おしい気持ちになる
- ⑤ 摂政・関白
- ⑥ あられる
- ⑦ 落ちぶれる
- ⑧ 優雅だ・優美だ
- ⑨ 時流に乗って栄える
- ⑩ 学才
- ⑪ 品位・身分
- ⑫ 本格的な・正式な
- ⑬ まじめで・誠実で
- ⑭ 文字
- ⑮ 下手だ
- ⑯ 興ざめな
- ⑰ もてなし・ごちそうをする
- ⑱ さっきの
- ⑲ あれこれ・とにかく
- ⑳ 調伏する・こらしめる・やっつける
- ㉑ 作る
- ㉒ そのような様子を見せずに・自然に
- ㉓ 疲れる
- ㉔ 困る
- ㉕ 効き目

# 古文単語チェックテスト Unit 63～65

次の語は、どのような立場・役職の人物か選択肢から選びなさい。

① 滝口    ② 蔵人    ③ 御息所

ア 天皇の後、寵愛を受けた宮女                      イ 天皇の日常生活に奉仕する秘書

ウ 酒や醤油などの製造にあたる職人                  エ 宮中の警衛にあたった武士

次の傍線部分の意味を答えよ。

▽ 御心魂のたけく、御まもりも④こはきなめり

▽ おどろおどろしく⑤かきたれ雨の降る夜、帝、⑥さうざうしとや思し召しけむ

▽ かく⑦人がちなるだに、気色おぼゆ。まして、もの離れたる所などいかならむ。

▽ よその君達は、⑧便なきことをも奏してけるかなと思ふ

▽ 殿ばらは、御気色変はりて、⑨益なしと思したるに    ▽ いま⑩二所も、苦む苦む各々おはさうじぬ。

▽ 松原のほどに、⑪そのものともなき声どもの聞こゆる

▽ 外まで⑫わななくわななくおはしたる                  ▽ 人のあるやうに見え給ひければ⑬ものもおぼえで

▽ ⑭ものもおぼえぬ官人どもが申しやうかな                  ▽ 御身より⑮ものもおぼえぬ水の流れ出づれば

▽ いと⑯のどやかに、御刀に、削られたる物を取り具して奉らせ給ふ

▽ ⑰ただにて帰り参りて侍らむは、証候ふまじき

▽ み熊野の 浦の浜木綿 百重なす 心は思へど ⑱ただに逢はぬかも

▽ 異殿たちの御気色は、⑲いかにもなほ直らで    ▽ その削り跡は、いと⑳けざやかにて侍めり。

▽ いと㉑らうらうじく、歌詠み給ふこともまさりてなん、㉒いますかりける。

▽ 心にももの㉓かなはぬ時もありけり。                  ▽ ㉔よばふ人もいと多かりけれど、返しもせざりけり。

▽ いたうやつれ給へれど、㉕しるき御さまなれば

# 古文単語チェックテスト Unit 63～65 解答

---

- ① エ
- ② イ
- ③ ア
- ④ 強い、しっかりした
- ⑤ 激しい雨
- ⑥ 物足りない、心さびしい
- ⑦ 人が多い
- ⑧ 不都合な、困った
- ⑨ 不都合な、困った、無意味な
- ⑩ お二方
- ⑪ 得体が知れない
- ⑫ 震えて
- ⑬ 正気を失って、無我夢中で
- ⑭ 道理・情趣がわからない
- ⑮ 思いがけない
- ⑯ 穏やかに、のんびり、落ち着いて
- ⑰ 何もなしで
- ⑱ 直接
- ⑲ どうしても、どうやっても
- ⑳ はっきりとして
- ㉑ 洗練されて・巧みに
- ㉒ いらっしゃる
- ㉓ 思い通りになる・適合する
- ㉔ 求婚する・言い寄る
- ㉕ はっきりしている